



横浜市立富岡小学校 学校だより 7月号



新型コロナウイルスとの共生時代の学習活動

副校長 藤田 敏明

この4月に富岡小学校に着任しました藤田敏明と申します。よろしくお願いいたします。

6月1日からの分散登校期間を経て、15日から全員登校での学校生活が始まりました。

各教室では、背筋を伸ばして教師の話を聞く姿、はきはきした声で発表する姿、身を乗り出して黑板やテレビに投影される画像を見る姿など、どの教室も子どもが真剣に学ぶようすが見られます。いつ教室を訪ねても、よい姿勢で学ぶ富岡小の子の姿に感心しています。私にとって富岡小は教員として7区7校目になりますが、富岡小の子の学ぶ姿勢は今まで赴任したどの学校より素晴らしいなと感じています。これからの富岡小の子どもたちの活躍を見るのが楽しみです！

先日、ピアノのメロディーが心地よく響く、音楽室の授業の様子を見に行きました。3年生の子どもたちがリズム打ちをしながら、曲想に合わせた身体表現を楽しんでいました。

7月からは給食、午後の授業が始まり、授業時間も臨時休業前と同じ、通常の時間に戻ります。ただ、各教科等の学習活動は、当分の間、感染症拡大防止の対策をとり、進めていきます。

例えば音楽では、

- ・歌う活動を行う場合はマスクを着用し、部屋の大きさや声を出す向き歌う回数にも留意する。
- ・当面はリコーダーや鍵盤ハーモニカ等、呼吸を使う楽器を演奏する場合は演奏の仕方に気を付け、間隔を十分とる等の配慮をする。

等、市教委から示されたガイドラインに基づき、学習活動を行います。音楽専科の清水教諭に話を聞くと、本校では当面、音楽づくりや鑑賞、リズム打ち等の活動に重点を置き、歌唱や合奏などは状況を見て増やしていく計画とのことでした。

ほかにも、理科では、「呼吸や吸気、密閉空間が必要な実験（光を扱う実験など）などは、教師が演示で行ったり、事前に撮影した動画を視聴したりする」、体育では、「ボールゲームは密集や接触が避けられないので、的当てゲームなどにする」等、ガイドラインに基づき、活動内容を工夫して授業を行います。

新型コロナウイルスのような感染症を引き起こすウイルスは、撲滅させることは難しいため、これから私たちは、人的被害を最小限に抑えながらこのウイルスと共生していかなければならないといわれています。そんな時代の学校は、授業の形態や活動等を見直し、IT技術を活用した新たな活動を取り入れることを含めて、適応のための工夫を進めていかなければなりません。

本校音楽部では、呼吸を使わなくても演奏できるキーボードを1学級の全員が一斉に使える数、用意しました。新たな生活様式の中でも、より豊かな教育活動が展開できるように、富岡小学校としても努力していきます。皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



図書室では、向かい合わせにならないように席を配置しています